

ARIBの動き

会長就任にあたって



社団法人電波産業会
会長 川村 隆

会員の皆様には平素より当会の活動に対し、格段のご支援とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

私は、去る7月1日に開催されました第46回理事会におきまして選任され、当会の会長に就任いたしました。当会の諸事業の推進にご尽力いただきました西田前会長を引き継ぎ、微力ではございますが電波産業の発展に尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

当会は、通信・放送分野の事業者、製造業者、利用者等から構成され、総務省、関係団体並びに会員の皆様のご支援、ご協力に支えられ、電波を中心とする情報通信産業の発展と高度情報通信ネットワーク社会の実現に取り組んでまいりました。

現在、わが国を取り巻く通信・放送の分野では、政府の主導のもと「u-Japan政策」が着実に推進されており、さらに、「完全デジタル時代」を迎える2011年以降を展望し、ユビキタスネット社会をさらに発展させていくための総合的なICT政策のビジョンの検討が行われているなど、すべての国民がICTを安心して利用でき、その恩恵を享受することができる安心・安全な社会の実現、ICT産業の成長促進やICTグローバル戦略の強化等が期待されます。また、政府による電波有効利用政策の円滑な推進とともに、電波技術の開発、実用化、電波の有効活用を推進していくことが重要であります。

通信分野におきましては、携帯電話が第3世代から3.9世代、さらには第4世代(IMT-Advanced)へと確実に発展しつつあり、またブロードバンドワイヤレスアクセスにおいてもWiMAX、XGP等の新たな無線サービスの展開が図られています。さらには、高度道路交通システム(ITS)等における電波利用の拡大など、無線システムの高度化が進展しています。

放送関係におきましては、2011年7月に予定されている地上デジタル放送への

完全移行に向け、デジタル放送ネットワークの充実への対応が急務です。また、衛星デジタル放送の高度化や次世代の放送サービスを見据えた取り組みも充実が図られています。

さらに、ICT国際競争力強化の取り組みの一環として、我が国の地上デジタル放送方式(ISDB-T)の国際普及活動が、南米諸国やアジア地区において積極的に展開されており、また、ワイヤレス分野においても我が国で培われた各種の無線通信技術の国際普及活動が推進されています。

このような動向を踏まえて当会は、次世代の新しいサービスの円滑な導入並びに実用化を行っていくために国際的な視点に立って、通信・放送分野の調査研究、研究開発、標準化等の推進に取り組んでまいります。また、電波利用に関する正しい理解を高めるとともに、電波を安心してご利用いただくために、電磁波が生体に及ぼす影響、あるいは無線機器が各種機器に及ぼす影響等に関する調査研究も充実させてまいります。さらには、電波の利用に関するコンサルティング、普及・啓発、情報提供、関連外国機関との連絡・協力、特定周波数変更対策なども着実に実施してまいります。

当会は今後とも、電波技術の進展や電波を取り巻く社会環境の変化に迅速かつ適切に対応し、内外関連機関と連携を図りつつ、電波産業の発展のため鋭意努力してまいりたいと存じますので、会員の皆様のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

ARIBの動き

第68回電波利用懇話会を開催

6月26日、当会の会議室にて、第68回電波利用懇話会を開催しました。

今回は、総務省情報流通行政局地上放送課課長補佐の原田秀雄様を講師にお迎えし、「地上デジタル放送の利活用の在り方と普及に向けて行政の果たすべき役割」という演題で、地上デジタル放送の普及目標と現状、総務省の受信者支援センター、アナログ放送終了にあたっての課題、さらに、7月24日に石川県珠洲市で行われる予定のアナログ放送終了リハーサルや米国での実施例にも言及されるなど、詳しくご説明いただきました。

全体をとおり、受講者の高い関心を集め、熱心に聴講をいただきました。



第68回電波利用懇話会の様子と総務省 原田課長補佐

ITS 情報通信システム推進会議平成21年度総会の開催

6月30日（火）、ARIBが事務局を務めるITS情報通信システム推進会議の平成21年度総会が、霞が関プラザホールで開催されました。

この総会では、豊田章一郎会長が議長に就き、平成20年度の事業報告及び収支決算、平成21年度の事業計画及び収支予算並びに平成21年度の役員及び運営委員選任について審議を行い、いずれも提案どおり議決しました。役員の選任では、新会長として渡邊浩之氏（トヨタ自動車(株)技監）を満場一致で選任しました。

豊田会長からは、IT 新改革戦略で取り上げられている「世界一安全な道路交通社会の実現」を達成すべく、運転支援通信システムの実用配備・本格運用に向けた検討を継続していきたいとの挨拶がありました。

渡邊新会長からは、豊田前会長の意思を引き継いで、ITSの早期実現の鍵となる「人と車と道路を結ぶ情報通信」の研究開発と標準化の推進に努力したいとの挨拶がありました。



総会風景



豊田章一郎会長 渡邊浩之新会長

「ITS情報通信システムシンポジウム2009」を開催

6月30日（火）ITS情報通信システム推進会議の平成21年度総会に引き続き、霞が関プラザホールにおいて、同推進会議の主催による「ITS情報通信システムシンポジウム2009」が、約180名の参加者を得て盛況に開催されました。

シンポジウムでは渡邊浩之新会長の開会挨拶、豊田章一郎前会長の挨拶、桜井俊総務省総合通信基盤局長の来賓挨拶に続き、特別講演と、同推進会議で昨年度に特に大きな成果を上げた運転支援通信システムに関する活動状況について2つの講演がありました。

特別講演： 「ITSにおける安全と安心のためのHMI」
稲垣敏之氏 筑波大学大学院 システム情報工学研究科教授

講演1： 「運転支援通信システムの標準化活動について」
佐々木邦彦氏 運転支援通信システム専門委員会 標準検討TG主査

講演2： 「運転支援通信システムの実用化環境に関する課題について」
神崎洋氏 運転支援通信システム実用化検討SIG主査

稲垣教授からは、リスク工学の立場から、ドライバーに安全運転支援情報を提供した時の機械と人間との信頼関係による過信と不信の課題や、制御介入などの運転支援におけるHMI(Human Machine Interface 及びHuman Machine Interaction)の在り方などに関する講演でした。

佐々木氏からは、昨年度の大規模実証実験に使われた700MHz帯を用いた運転支援通信システムのガイドラインの概要、実証実験のデータ分析結果、700MHz帯を用いる際の隣接システムとの干渉の検討結果等についての紹介及び説明がなされました。

神崎氏は、運転支援通信システムを実用化する上で必要な管理機能、システム運用の仕組みなどに係る課題の検討結果について述べられました。

最後に、羽鳥光俊副会長から閉会挨拶があり、成功裏にシンポジウムを閉じました。

なお、今回の講演にもあった、同推進会議の運転支援通信システム専門委員会は、運転支援通信システムの実現に向けた活動実績が認められ、本年6月1日に「電波の日」の総務大臣表彰を受けております。



桜井俊
総務省総合通信基盤局長



シンポジウム風景



羽鳥光俊副会長



稲垣敏之氏



佐々木邦彦氏



神崎洋氏

[ページの先頭に戻る ▲](#)